



グリム兄弟の末弟 ルードヴィヒ・エーミール・グリム筆
「シュヴァルム地方（ドイツのヘッセン州）の民俗衣装」

CONTENTS

- ◎ **特集：童話・メルヘン・絵本のおはなし**
 - ・愛知大学図書館で、「著者名」で検索！～児童文学と絵本で英語の本の世界に浸る～
法学部 小坂 敦子 …………… 2～3
 - ・ピーター・ラビットとピアトリクス・ポターの世界
国際コミュニケーション学部 田本 健一 …………… 4～5
 - ・グリム童話のイラスト散見 国際コミュニケーション学部 河野 眞 …………… 5～7
 - ・2人（2匹）の主人公の繰り広げる優しい世界に包まれながら、フランス社会をのぞいてみよう！
経営学部 関 未玲 …………… 8～9
 - ・絵本の旅へ 共通教育科目（フランス語）講師 松崎 成子 …………… 10～12
 - ・北京の街角で見つけた「お薦めの一冊」 法学部 鄭 高咏 …………… 13～14
 - ・中国の絵本事情 いったいどんな絵本が読まれているのか
国際コミュニケーション学部 塩山 正純 …………… 15～16
 - ・子どもの本でタイ語を学ぼう！
国際コミュニケーション学部 加納 寛 …………… 17～18
 - ・国境を越えたロシア民話 経済学部 清水 伸子 …………… 19～20
 - ・アンパンマンを卒業し、アンパンマンに戻る 経済学部 清水 伸子 …………… 21～22
 - ・エロール・ル・カインの魅力～大人も惹きこむ不思議な世界～
国際コミュニケーション学部4年 金井 夏美 …………… 23
- ◎ **絵本から英語の感覚を探る** 法学部 北尾 泰幸 …………… 24～25
- ◎ **Romanian superstitions** 大学院文学研究科修士課程1年 Andreea Ifrim …………… 26～27
- ◎ **UCLでの夏休み** 国際コミュニケーション学部4年 柴垣 雅斗 …………… 28
- ◎ **ホームページには〇〇がいっぱい！** …………… 29
- ◎ **今号のeラーニング【TOEICテスト演習2000コース】** …………… 30
- ◎ **豊橋校舎の魅力～Language Café～** …………… 31
- ◎ **2016年度外国語検定試験奨励金のご案内・編集後記** …………… 32

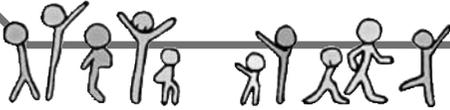


童話・メルヘン・絵本のおはなし

愛知大学図書館で、「著者名」で検索！

～児童文学と絵本で英語の本の世界に浸る～

法学部 小坂 敦子



ここ数年を思い返すと、いつも2、3名の、児童文学作家や絵本作家に夢中で、その時々には、その作家たちの本を続けて何冊も読んでいます。通勤のときに読むことが多く、思わず本の世界に入りこんでしまって、次の駅まで行ってしまったこともあります。以下、愛知大学名古屋図書館1階多読コーナーにある本を中心に、英語で読めるお薦めの児童文学作家、絵本作家を何名か紹介します。豊橋校舎の学生さんも、興味を持つような本があれば、愛大名古屋図書館より取りよせてみて下さい。

ここ数年に読んだ児童文学作家よりのお薦め

2012年頃は、アメリカで人気の児童文学作家ルイス・サッカード（Louis Sachar）にはまって、英語で出版されているものはほとんど読み、2012年12月に語学教育研究室から発行された『Goken News』（No. 26）（愛大の語学研究室のウェブサイトからGoken Newsをクリックすると読めます）に、彼の作品の紹介文を書きました。ルイス・サッカードの作品で、過去の学生からも好評なのが『Alone in His Teacher's House』¹。大きな字で80ページ程度なので読みやすく、主人公の友達の悪友(?)ぶりもなかなかです。私には予想外の展開でした。

2013年7月の『Lingua』（No. 2）にも、洋書を楽しく読み終えようという主旨の文を載せました。この時紹介した作家の中では、ケイト・ディカミロ（Kate DiCamillo）を一時、よ

く読みましたが、彼女の『Miraculous Journey of Edward Tulane』²は、卒業生のお薦めでもあります。

ここ3年ぐらいで、何冊も読んだ作家の中には、シャロン・クリーチ（Sharon Creech）もいます。どの本も、少し不思議な雰囲気があります。私が好きなのは、『The Boy on the Porch』³で、子どものいない夫婦の玄関に、ある朝、少年が寝ているところから話が始まります。

アヴィ（Avi）は、最初に読んだ、『Nothing but the Truth』⁴の印象が、とにかく強くて、すっかり引き込まれました。それで、彼の作品を読み始めてビックリ。まだ15冊ぐらいしか読んでいないのですが、書くトピックの範囲も、本から受ける印象も、長さも、本によって随分と異なるのです。中には、大人にはあまり読み応えがないと感じる作品もあると思いますが、彼の守備範囲の広さも面白いです。なお、アヴィの場合「著者検索」では探しにくいのですが、幸い、愛大名古屋図書館1階多読コーナーは著者別の配架となっていますので、図書館に足を運ぶと簡単に見つかります。

キャサリン・パターソン（Katherine Paterson）も、一時期、はまっていました。代表作はニューベリー賞受賞の『Jacob Have I Loved』⁵と『Bridge to Terabithia』⁶ですが、私のお薦めは『The Great Gilly Hopkins』⁷です。したたかな主人公ギリーの変化と最後の終わり方が印象に残ります。

ロイス・ローリー (Lois Lowry) は、愛大図書館には数冊しかありませんが、『*The Giver*』⁸ は名作です。アメリカのアマゾンで検索すると、約9,000というすごい数のレビューがあります。児童文学ですが、大人にも十分に読み応えがあると思います。

英語の苦手な人も得意な人も絵本で楽しいひとときを！

まず、今までの学生のコメントと共に、絵本を数冊紹介します。

☞ ピーター・レイノルズ (Peter H. Reynolds) の『*The North Star*』⁹

「大好きなので、図書館にあるけど、自分用に1冊購入しました」

⇒ この著者の本はどれもいいです。

☞ ロジャー・デュボワザン (Roger Duvoisin) の『*Petunia*』¹⁰

「あまりのおばかさんで、英語の本って面白いと単純に思った」

⇒ 主人公は、本で頭がよくなると聞いて、本を持ち歩けば賢くなると思ったおバカのガチョウです。

☞ ジョン・バーニングム (John Burningham) の『*Borka*』¹¹

「下手なTV番組を見るよりこの本の方がずっといい」

⇒ ジョン・バーニングムは本によって終わり方が多様で、その点も魅力です。ぜひ複数冊読んでみてください。

以下、愛大図書館で「著者検索」でお薦めの作家と、それぞれの作家より私のお薦めの1冊を紹介します。それぞれの作家から1冊だけ選ぶのは至難の技ですから、ぜひ、複数冊、手にとってください。

☞ 社会的なテーマの作品もあるイブ・バンティング (Eve Bunting) からは『*Train to Somewhere*』¹²。「孤児列車」が題材で、絵本としては字も多めです。じっくり味わって下さい。

☞ アンソニー・ブラウン (Anthony Browne) からは、『*Willy the Wimp*』¹³。Willy 君シリーズは楽しいものが多いです。

☞ ショーン・タン (Shaun Tan) からは『*The Lost Thing*』¹⁴。アカデミー賞受賞映画の原作絵本で、不思議な雰囲気の本です。

☞ ジャネル・キャノン (Janell Cannon) であれば『*Stellaluna*』¹⁵。映画「アイ・アム・サム」の中で子どもが読んでいる本だと、学生に教えてもらいました。映画のテーマを考えて、この本が選ばれているように思います。

☞ トミー・デ・パオラ (Tomie de Paola) からは、最後の1ページがなんともカッコいい『*The Art Lesson*』¹⁶。

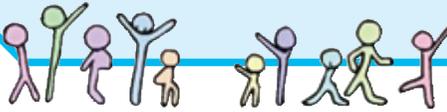
☞ クリスヴァン・オールズバーグ (Chris Van Allsburg) からは『*The Wreck of the Zephyr*』¹⁷。この著者の絵本は、村上春樹が訳しているものがけっこうあります。

しっかり選書は大切！

せっかく借りたけれども、「自分には合わない」ということを避けるためにも、選書をしっかりしましょう。読む前には裏表紙等を書いてある文を読んだり、最初の2, 3ページを読んだり、場合によっては日本語のレビューも読んでみてください。「合わない」、「つまらない」と思ったら、「その本はやめて、他の本を選ぶ」ことも必要です。

- 1 Marvin Redpost シリーズの4冊目。Random House, 1994年。
- 2 Candlewick Press, 2006年。
- 3 Anderson, 2013年
- 4 Scholastic, 1991年。
- 5 Puffin, 1980年。
- 6 HarperCollins, 1977年。
- 7 Puffin, 1978年。
- 8 Dell Laurel-Leaf, 1993年。
- 9 Candlewick Press, 2009年。
- 10 Dragonfly, 1977年。
- 11 J. Cape, 1963年。
- 12 Clarion Books, 1996年。
- 13 A. A. Knopf, 1985年。
- 14 Lothian Children's Books, 2008年。
- 15 Harcourt, 1993年。
- 16 Putnam & Grosset, 1989年。
- 17 Houghton Mifflin, 1983年。

ピーター・ラビットと ビアトリクス・ポターの世界



国際コミュニケーション学部 田本 健一

我が家には「ピアノ」という名の物置があります。ピアノの上に色々なものが置かれているからです。置きものの上にはかなり大きな絵が掛かっています。自然の景色を描いた絵です。マホガニーの額がよく似合います。イギリスの画商によると湖水地方（The Lake District）だそうです。その絵の下に置かれているものは、ピーター・ラビットのお話（The Tale of Peter Rabbit）の著者、ビアトリクス・ポター（Beatrix Potter, 1866-1943）の世界に登場する主人公たちのぬいぐるみです。ハリー・ポターの愛好者はポッターアンと呼ばれていますが、我が家はビアトリクスのポッターアンということになるのかも？

ところで、ピーター・ラビットというと「ああ、あのうさぎね。かわいい！」となるのですが、ビアトリクス・ポターとなると、「?? ...」といった感じなのです。ビアトリクスは湖水地方に棲む動物を主人公に、22編のお話を書きました。『ピーター・ラビットのお話』はその一つです。『ピーター・ラビットのお話』の初版は1902年にカラーの挿絵入りで8000部出版されました。飛ぶように売れ、何か国語にも翻訳されました。お話しの本文は、「むかし、小さなウサギが4匹棲んでいました。名前はフロップシ、モップシ、コットンテール、そしてピーターでした。」で始まります。ピーターはいたずら好きなので、お母さんはいつも心配です。

「ピーター、マクレゴルさんのお屋敷に入っ
はいけないよ。あなたのお父さんはウサギパイ
にされてしまったんだからね。」と言われ
ているのに、ピーターはマクレゴルさんの農場
に入って行きます。マクレゴルさんに見つかっ
て、追いかけれ、命からがらお母さんの所に
逃げてきます。物語の大筋はそんなところで
しょうか。

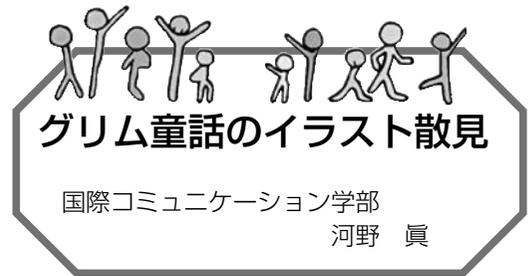
著者のビアトリクス・ポターが一番気に入っ
ている物語は、1902年出版の『グロスターの仕
立屋さん』（The Tailor of Gloucester）です。こ
の作品は、他の22編と違って、グロスターとい
う都会に住むネズミさんたちと、仕立屋のおじ
いさんと、その飼い猫シンプキンが登場します。

このお話のあらすじはこうです。仕立て屋さ
んは大変腕の良い職人さんなので、グロスター
の市長さんから婚礼用の服を作ってくれるよう
にと頼まれます。仕立て屋さんは、はりきって、
上質の絹織物の生地をチョキチョキと裁断しま
す。裁断はあまりにも見事なので、端切れはほ



とんどないような具合です。それでも多少の端切れが残るので、「こんな小さいのは、ネズミにでもくれてやるよ。」と言うのをネズミさんたちは聞いていて、見様見真似で端切れの服を作ります。ボタン穴のふちを縫うチェリー色のより糸以外は、生地のカ断はすべて終えてしまいます。あとは、縫い合わせればよいだけにしておいて、お店に施錠して自分のキッチン兼寝室へ戻ります。猫のシンプキンにお金を渡して、パンと、ミルクと、ソーセージと、チェリー色のより糸を一束買ってくるようにと言いつけます。しばらくすると、食器棚から、かたこと、かたこと、という音が聞こえてきます。仕立て屋さんが食器棚に伏せてあったカップを開けてみると、ネズミさんが閉じ込められていたのです。ここにも、そこにも、あそこにも。ネズミさんたちは、きちんとお辞儀をして、一斉に逃げていきます。猫のシンプキンが買い物から帰ってきます。言われたことはきちんと守って、買ってきたのです。ところが、自分の大好物のネズミさんが逃がされたのを知って、怒りに燃えます。そしてより糸を隠します。仕立て屋さんは病気になる、うわごとを言います。今日は火曜日、土曜日には仕上げないと、より糸はどこに、…。ネズミさんたちはそれを聞いています。そして全員集まってなにか相談します。

はたして、この結末はいかに？後は読んでのお楽しみ。一つだけヒント：日本のお話に『…の恩返し』というのがありますね。このお話はそのネズミさんヴァージョンかな？



昔話、おとぎ話、メルヒェン、Fairy tale 一妙に聞こえるかも知れないが、現代は<メルヒェンの時代>と言ってもよい。それもイラストと一緒にあったメルヒェン。やや大きなタイム・スパンで見ると、十八世紀のヨーロッパではまだ昔話（メルヒェン）は一般的ではなかったが、十九世紀に入った頃から様相が一変した。それはドイツ語の Märchen という言葉を見ても分かる。中高ドイツ語 maere（知らせ、報告など口伝に伝えるもの）に縮小詞 -chen がついた語形だが、十八世紀末頃に使用頻度が高まった。そしてこのMärchen を今日のFairy tale に適用したのがグリム兄弟で（兄ヤーコブ Jacob Grimm 1785-1863 弟ヴィルヘルム Wilhelm Grimm 1786-1859）、その『子供と家庭の昔話（=グリム童話）』（KHM）第一巻の初版は1812年であった。ちなみにゲーテではその語義はなお流動的で、ある種の歌をメルヒェンと呼んでいるほか、「メルヒェン」というタイトルの（童話風ではあるものの）難解な作品をゲーテは書いている。もっともグリム兄弟がメルヒェンに関心を寄せた最初は、古い時代の法を研究するための資料集めという趣旨だった。しかし出版されると評判になったので、昔話として独立させたという経緯がある。そのためヤーコブ・グリム（兄）の法学者としての重要な研究成果『ドイツ古法集成』との重なりがみとめられる。昔話の蒐集は、慣習法や村の掟を集める仕事と底流ではつながっていたのである。

ところでそのメルヒェンだが、今日では挿絵やイラストと一緒にあったり、絵本のかたちであったりすることが多い。そこでのイラストはたんなる添え物という以上にメルヒェンと結びついている。そのスタイルが鮮明になったのも『グリム童話』においてであった。イラストを文字と一緒に印刷することが容易になった印刷術の発展の産物でもあるが、基本的にはそれが現代にまで及び、今日ではそこに映画やテレビやCGが加わっている。



ルートヴィヒ・エーミール・グリムが描いた
昔話のおばさんと子供たち

『グリム童話』の挿絵は多くのアーティストが手がけてきたが、ここでは二人を取り上げよ



ドロテア・ヴィーマンの肖像
ルートヴィヒ・エーミール・グリム筆

う。一人はグリム兄弟の末の弟のルートヴィヒ・エーミール (Ludwig Emil Grimm 1790-1863) で、彼が兄たちの作品につけた挿絵が、昔話とイラストとの組み合わせの時代を切りひらいたと言ってもよい。ルートヴィヒ自身もカッセルの芸術アカデミーで教えるなどの実績があり、また兄弟たちの出身地である今日のヘッセン州の北域の風物を描きとめた。一帯には特にシュヴァルム地方 (Schwalm) という辺鄙な地域があり (日本で言えば岩手県の遠野地方といったところか)、その地の衣装の描写は、プロテスタント教会圏の衣装伝統としても、身分社会の時代の服飾の記録としても重要である。また『グリム童話』との関係では、グリム兄弟に昔話をきかせた一人ドロテア・ヴィーマンの肖像が、以後、昔話の語り手の定番の姿になった。たいていの版にそれが載っているだけでなく、ドイツの「メルヒェン街道」沿いのレストランや喫



ルートヴィヒ・エーミール・グリム筆
銅版画「赤づきん」の下絵

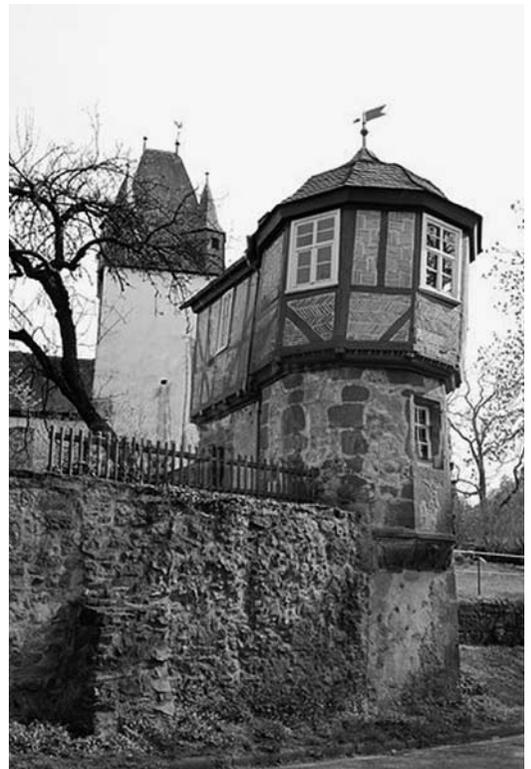


オットー・ウッベローデ筆
「ラプンツェル」のイラスト

茶店では、ルートヴィヒ描くところのドロテアの恰好をしたウェイトレスが人気を呼んでいる。また「赤頭巾」をどう描くかには工夫を重ねたらしく、完成した銅版画の他に下絵が何枚も残っている。

時代を飛ばして、もう一人オットー・ウッベローデ (Otto Ubbelohde 1867-1922) という画家を挙げておきたい。『グリム童話』への挿絵を手掛けた画家やイラストレーターの中かで、ヘッセン州の風物を活かしたのはウッベローデだった。生まれたのはマールブルクで、没地もその郊外である。晩年の作品には二十世紀初めの新しい芸術様式ユーゲントシュティル (Jugendstil) と重なる風合いをもっている。フランスのアールヌーボーのドイツ版である。ここに挙げたのは『グリム童話』1909年版に添えられた「ラプンツェル」(KHM 12) のイラストである。ラプンツェルは野葛(のぢしゃ)

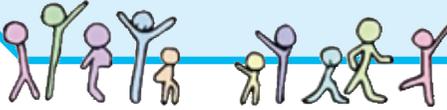
と訳されるが、日本のチシャとは別種である。しかし共通しているのは、農薬のない時代にも庶民が口にできた数少ない青菜の一種だったことである。虫につよく野生でもよく育ち、若葉がサラダに使えるなど、昔の食生活が取り入れられた話でもある。そして、ヒロインの髪長姫が閉じ込められた塔は、ヘッセン地方の城砦によく見られる造りを映しているとされている。特定は難しいが、候補はいくつかある。グリム兄弟とその生まれ育ったヘッセン地方、それを描いた同じ地方のイラストレーター 塔屋の背景の何となく瘦せた感じの山野はヘッセン地方北部の光景を思わせ、そしてちょっぴりユーゲントシュティルの気配がある。



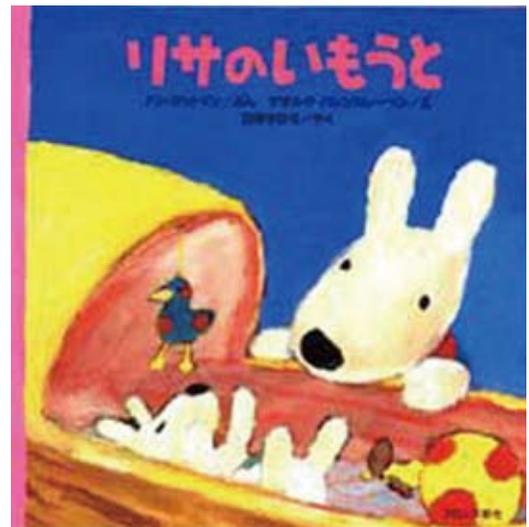
現存するラプンツェルの城 (一部復元)

2人(2匹)の主人公の繰り広げる優しい世界に包まれながら、フランス社会をのぞいてみよう!

経営学部 関 未玲



とびきり可愛い、うさぎとも犬とも違う主人公のリサと友人ガスパールが繰り広げるパリを舞台とした絵本を読んだことがなくても、リサとガスパールのキャラクターグッズを目にしたことがある人は多いと思います。誰だって、あんなにキュートな白毛のリサと黒毛のガスパールのぬいぐるみを目にしたら、思わず抱きしめたくってしまうのではないのでしょうか。他にもコースター、お財布、折り畳み傘、手帳、カレンダー、膝掛けなど、ありとあらゆるグッズがそろっています。子ども向けの絵本から飛び出した2人は、今やフランスだけでなく、世界中で愛されるキャラクターになっています。しかし2人の魅力はその愛らしい姿にとどまりません。絵本の世界観、リサの天真爛漫で嘘偽りのない等身大の姿がまた、たまらないのです。妹の誕生を描く『La petite sœur de Lisa』(Anne Gutman/Georg Hallensleben 著/Hachette 社/邦題『リサのいもうと』ブロンズ新社)では、可愛い妹の誕生を友だちには得意気に自慢してみせるリサが、他方で注目を一身に浴びる妹に対してこの上ない嫉妬心を感じ、「CATASTROPHE(大惨事)！」なんて毒を吐いてみせたりします。日本の絵本では往々にして、弟や妹の誕生を祝い封印されるこのやり場のない嫉妬心を、フランクなフランス人さながらリサは躊躇することなく口にしてしまうのです。「女の子が産まれたら『ゴミ箱』、男の子が産まれたら『シラミ』っていう名前がいいわ!」なんて憎まれ口を言っても、リサは愛情の薄い、身勝手な姉ではありません。部屋で二人きりになると、ベッドから妹を愛おしそうに両手いっぱい抱きかかえて、くんと赤ちゃん特有の甘い匂いを嗅い



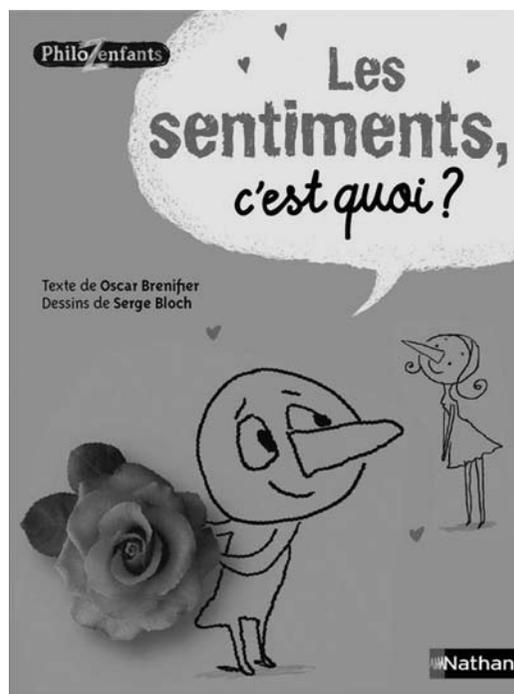
だりするのです。

『Lisa dans la jungle』(邦題『リサ ジャングルへいく』)は、フランス人の心情が垣間見える作品です。年間5週間もの休暇が確保されているフランス人を羨ましく思っている人もいることでしょう。しかし不況に喘ぐ現在のフランスでは、5週間の休みは余りにも長く、移動費、宿泊費、飲食費、お土産代に、旅先でのイベント代等を工面できずに旅行を諦める人が増えています。フランス人のなかには「素敵なバカンスを過ごさなければならない」と、脅迫観念のようにすら感じている人もいるほどです。ですから9月ともなれば主人公リサのように、行ったこともない場所でバカンスを過ごしたと吹聴する人が現れることも、しばしば。9月の始業式、写真を友人に見せながらバカンス中の楽しい思い出を語るガスパールに対して、リサは焼きもちをやきます。そこで、ポール叔父さんの所有するジャングルへ行ったと、つい嘘をついてしまうのです。2頭のゴリラが出迎えてくれ

たこと、オウムのジョルジュが毎朝起こしてくれたこと、象に乗ってジャングル内を巡察したこと、赤ちゃんパンサーに哺乳瓶でミルクをあげたこと、どれも夢見物語であることは明白ですが、リサの語るジャングルでの生活が心弾むもので、つい引き込まれてしまいます。素朴なタッチで描かれた画風もまた、リサの世界観を盛り上げてくれると言えるでしょう。とはいえ、ここで物語が終わらないところが、リサシリーズのにくいところ。ガスパールが、ジャングルでのバカンスなんて作り話ではないかと疑い始めるのです。間一髪バラディ先生に注意されたことで、クラスは静かになりバカンスの話題は立ち消えます。リサがドキドキしながら次の土曜日に急いで植物園（パリに実在し、動物園も併設されています）へ行って証拠写真を撮らなきゃ、と思いを巡すまでが描かれて、物語は閉じられます。リサのついた小さな嘘は翌月曜日には皆にバレてしまうかもしれないし、あるいはそうでないかもしれない、そんな寛容に満ちた空白を残し、リサを悪者に仕立て上げない優しさに満ちたシリーズが、世界中の共感を呼んでいるのだと思います。日本語訳も出ていますが、平易なフランス語で書かれているので、ぜひ原書で読んで欲しい作品です。



また、日本どうよう人間関係に悩むフランスの子供たちに向け、『Les sentiments, c'est quoi ?』(Oscar Brenifier/Serge Bloch 著 /Éditions Nathan-Paris 出版 / 邦題『きもちって、なに?』)という児童書もお勧めです。「やきもち」「けんか」「恋」「友達」など項目別に短いフレーズが並んでいて、Q & A ならぬ A & Q 形式で、模範的な答えに疑問を呈すやり取りが展開されます。気づけば、もやもやとした自分の感情と向き合っている、そんな示唆に富む作品と言えるでしょう。日本語版は、作家の重松清監修による「こども哲学シリーズ」に収められ、朝日出版社から出版されています。友人関係に切り込んだ絵本と言え、日本では詩人谷川俊太郎の『ともだち』(玉川大学出版部)も頭に浮かびますが、そのフランス版とも言える『mon ami à moi (僕のともだち)』(Corinne Dreyfuss/Maud Legrand 著 /Actes Sud 出版)も、子ども向けの絵本とは言え、考えさせられる一冊です。ぜひ語学の力試しを兼ね、フランス的な発想や思考に刺激を受けながら、フランスならではの絵本の世界を楽しんでください。



絵本の旅へ



共通教育科目（フランス語）講師 松崎 成子

絵本は年齢制限なし

「絵本」と聞いて「子どもの本」とイメージしたあなた！それは実にもったいないことだと思います。絵本は年齢制限なく読む人をワンダーランドへと誘ってくれます。その世界ではどんな人のどんな生き方も無条件に肯定されます。どれほど突飛で風変わりで、現実離れしていても、また時空を超えることだってお咎めなしで、何だって自由なのです。

試しに世界中で大人気の『バーバ・パパ』シリーズ（講談社 山下明生 翻訳）（原題 *Barbe à papa*）の1作を開いてみましょう。この本はそれぞれとっても個性的で、色とりどりの綿アメ9人家族が、ピンク色のパパを筆頭に大活躍します。出会った人や動植物が窮地にあると見るや、皆が変幻自在に変身して救援に乗り出します。サーカス団の動物たちにだって、ノアの箱舟にだって何のその。その発想がユーモアに溢れているため、誰もが最後は愉快で幸せな気持ちになれます。



ヨーロッパの子ども文化の成立時期は『不思議の国のアリス』が出版された1871年とされています。それ以前には絵は夢想、空想の産物として明らかに不信感を持たれていました。その後、優れた作品が古典として定着して、今日ではアリス、ピノキオ、ピーターラビット、ババル、ムーミンなどは世界共通の財産となっています。（註1）こうしたヨーロッパ発の絵本文化は、日本にもしっかり根付きました。大人は勝手なもので、子ども時代の感情を置き去りにしがちです。絵本は子どもの目線でそれらを思い出させ、想像力を羽ばたかせ、ユーモアで励ましてくれます。日々の暮らしの中でちょっと躓いたとき、人生は一本道ではなく、こんなにも一杯バイパスがあるよと気付かせてくれたりもします。

絵本は美術館

絵本のもう一つの魅力は絵やグラフィックの素晴らしさです。絵本は現代では1冊1冊が小さくても立派な美術館です。世界的に多くの画家たちが絵本製作に参入し、今や百花繚乱の趣があります。また絵本の領域では絵が支配的な傾向にあり、全く文字のない作品も珍しくありません。文字がない分、絵の表現力が勝負となり、これはアートの世界に通じるものです。本屋さんで児童書のコーナーに立ち寄るとその質と量の豊かさに驚かされます。日本のように、良質の児童書、絵本が自国の言葉で豊富に読めるということ自体、当たり前ではない幸せに違いありません。

二人の絵本作家

絵本は大人にこそヒットすると伝えたくて、ここに私の好きなガブリエル・ヴァンサンといせひでこという二人の作家を紹介したいと思います。絵本作家も国をまたいで往來する現在です。ここでは原作または翻訳がフランス語の作品とゆるく捉えることとします。

ガブリエル・ヴァンサン (Gabrielle Vincent 1928-2000)

ベルギーのブリュッセルの生まれで、彼女の代表作『アンジュール ある犬の物語』(BL 出版 1986年) (原題 *Un jour, un chien*) は46歳の時の作品です。一匹の捨てられた犬の運命を時間を追って克明に描写した本です。文字はなく鉛筆のデッサンですが、見捨てられた犬の必死さと哀しみが胸を打つ秀作です。ヴァンサ



ン氏は王立アカデミーで教育を受けた後、ひたすらデッサンに打ち込みます。彼女は18歳のころ日本の水墨画に出会います。全てを描かず見る人に想像させる線描の世界に大きな衝撃を受け、さらに「静謐の画家」と言われモノトーンを好んだモランディ (Giorgio Morandi 1890-1964) の影響を受けます。また彼女は一生をかけてピアトリクス・ポターの『ピーター・ラビット』のような動物絵本を目指していたとのこと。それは『くまのアーネストおじさん』シリーズ (BL 出版もりひさし翻訳) (原

題 Ernest et Célestine) の絵本を見るとわかります。22冊が日本でも翻訳されています。こちらも見事なデッサンと水彩で、くまのエルネストと (アーネストは英語の読み方)、彼によってゴミバケツの中から拾われたねずみの女の子セレスティーンの日常を温かなまなざしで描いています。こちらの作品群も文字は最小限で、もっぱら絵が語りを受け持っています。



いせひでこ (伊勢英子 1949-)

北海道で13歳まで育ち東京芸大卒業。チェロ奏者でもあり宮沢賢治作品も多い人です。

この人の絵本『製本職人とアカシアRELIEUR ET ROBINIER ルリユールおじさん』(理論社 2007年) はまず絵



が素晴らしいです。各頁の絵はそのまま額縁に入れて眺めたくなるほど完成度が高く、物語性も豊かな水彩画です。その質の高さと、物語がバリでの実生活の中から取られた、古本修理の老いた職人と女の子との話であることもあり、

フランスでも翻訳出版されました。ただ絵がうまいというのではなくこの絵本は何度読んでも心打つものがあります。巻末にある伊勢さん自身のメッセージをご紹介します。

「.....RELIEUR、M 氏に捧げる

パリの街の一角。路地裏の小さな窓。
窓の中で手作業を続ける老人。
ちいさな灯りの下、規則正しく揺れる白髪。
手には糸と針。
かがられていく黄ばんだ本。
窓辺に背を向けて並んだ、色や大きさの異なる本。

深紅、緑、濃紺、黒、茶色の皮表紙には
金箔の文字とアラベスク装飾。

色彩と光に凝縮された時の流れ。

そこに奏でられているのは沈黙と記憶という
音楽。

窓ガラスのちいさな紙片に

製本金箔
『RELIEUR-DOREUR』

そして

『私はルリユール。いかなる商業的な本も売らない、買わない』.....

(↓は伊勢さん自身の回想です。)

旅の途上の独り歩きの絵描きを強く惹きつけたのは、『書物』という文化を未来に向けてつなげようとする、最後のアルチザン(手職人)の強烈な矜持と情熱だった。手仕事のひとつひとつをスケッチしたくて、パリにアパートを借り、何度も路地裏の工房に通った。そして、気づかされる。

本は時代を超えてそのいのちが何度でもよみがえるものだ。

旅がひとつの出会いで一変する。

いせひでこ 』



註1) 国際子ども図書館主催講演会「現代ヨーロッパ絵本の展望」2002年12月 Sophie Van der Linden/末松海子 訳を参照

※『不思議の国のアリス』の初版は1865年

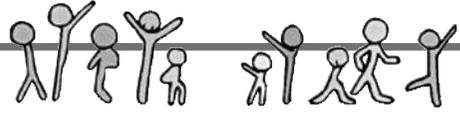
参考図書

1. 『フランスの子ども絵本史』石澤小枝子、高岡厚子、竹田順子、中川亜沙美 著
大阪大学出版会 2009年

フランス児童文学は研究者も翻訳者も少ない上、本国でも児童文学に関心を寄せる人は多くありませんでした。1982年に梅花大学文学部に日本初の「児童文学科」が誕生。この大学の研究者たちと図書館は長い年月と労力をかけてフランスの絵本史の研究と貴重図書の収集に努めて来ました。フランス国立図書館(BNF)、フランス各地の図書館、美術館、出版社、個人の協力で貴重な図録と資料がふんだんに掲載された本書が刊行されました。フランスでもこれに類する本はほとんどないとのことです。愛知県美術館で閲覧できます。とても重いですが、美しい本です。

2. 『昔話・絵本の再発見—マーシャ・ブラウンとガブリエル・パンサンを中心に—』
小澤靖夫 著 古今社 2005年

著者の小澤さんは元銀行員です。小澤俊夫さんの「昔話大学」と、柳田邦夫さんの絵本を広める活動との出会いから、絵本の持つ不思議な力に気がきます。その経緯を日本の昔話から西欧の絵本まで縦横に紹介しながら語っています。中に「安曇野絵本館」の話が出て来ます。名古屋からは比較的近いですし、絵本に興味を持つ人は、安曇野散策を兼ねて出かけてはどうでしょう。



北京の街角で見つけた「お薦めの一冊」

法学部 鄭 高咏

8月の北京も日本と同じくらい暑い日が続きます。

その暑い北京のある日曜日、里帰りした私は繁華街・西単にある北京最大の書店「北京図書大厦」に出かけました。そこには中国で発行される本なら大概のものが揃っていて、参考書を探すには打ってつけです。また、広々とした店内にはクーラーが程よく効いていてとても快適でもあります。

汗をふきふき中に入ると、夏休みということもあって元気一杯の子どもたちがワイワイと走り回っています。私と同じく涼みがてらのお父さんやお母さんに連れてきてもらったのでしょう。子どもたちの楽しそうな様子を見てみると、そこはまるで自由な楽園のように思えてきます。

もちろん、熱心に本を読んでいる子も大勢います。ゲームやスマホばかりいじっている子どもの多い中、小さい時から本に親しみ、色々な



写真1

知識を吸収しようという子供もいるわけです。

子どもたちに最も人気があるのは絵本コーナーです。驚いたことに、そのコーナーの本棚の前には大勢の子どもたちばかりではなく、その親たちまでも絵本を熱心に読んでいました（写真1）。日本では信じられない光景です。

このコーナーには中国語に訳された日本の絵本が何十冊も並んでいました。「14只老鼠」*Shísìzhīlǎoshǔ*（いわむらかずお『14匹のねずみ』＝写真2）、「野狼瘪肚子」*Yělángbiēdùzi*（宮西達也『おまえうまそうだな』）、「窗边的小豆豆」*Chuāngbiāndèxiǎodòudou*（黒柳徹子『窓ぎわのとなとちゃん』）、「月亮不见了」*Yuèliangbújiànle*（和田誠『ぬすまれた月』）などです。



写真2

日本で中国語教材として使えそうではないかと思った私は、近くにいた女の子に気づきました。彼女は「一年级大个子 二年级小个子」*Yīniánjīdàgèzi Èrniánjīxiǎogèzi*（古田足日『大きい1年生と小さな2年生』）という本をじっと読んでいます（写真3）。

この本は子ども向けで、中国語に訳した漢字



写真3

にピンインがついています。翻訳者の彭懿氏は、東京学芸大学に留学経験があり、SF小説を書く傍ら、日本の絵本を数多く翻訳しています。

女の子の熱心な姿が可愛らしく、思わず話しかけました。すると、彼女は「私は今、小学三年生。本を読むのがすごく好きなの。日本の絵本は何十冊も読んだわ」、と言うのです。夏休みに教育省などが推薦する児童用絵本100選のうち90冊近くを読破し、そのうち20冊は日本の作品だったそうです。手にした「一年級大个子 二年级小个子」を得意気に私に見せながら、「この本にはピンインがついているから、勉強になるわ。内容もとても面白いの。それにタイトルが魅力的よね」、と言いました。

女の子の話聞いて、「これは外国人でも読みやすいに違いない」とピンと来た私は、すぐさま同じ本を手にとると、カウンターに直行しました。

中国語を学ぶみなさんに、北京の本屋さんで出会った女の子が薦める、「一年級大个子 二年级小个子」を、ここで紹介することにいたしました。

それは小学校1年生の正也くんと二年生の秋代ちゃんの物語です。正也くんの背は大きいけれど気が小さくて泣き虫、秋代ちゃんの背は小さいけれど勇敢なしっかり者です。2人が織り成すエピソードを美しい絵と文章で描写し、少しずつ成長する様がいきいきと伝わってきま

す。愛知大学名古屋図書館にも収蔵されています。

中国語学習のためには、次の二通りの読み方をお勧めします。

第一の読み方は、まずピンインを参考に、それぞれの単語の発音に注意しながら大きな声を出して一通り読んでみることです。その後、黙読で話の内容を読み取ってください。意味が分からない単語が出てきても、いちいち辞書を引くのではなく、前後の文脈で判断してみましょう。この方法は中級以上のレベルの方に向いています。第二の読み方では、日本語の原本と照らし合わせて読んでみましょう。まず中国語版を読んで見て、内容や物語の情景を考え、その後で原本を読み、自分の理解が正しかったかどうか確認します。この方法には時間と忍耐力が必要です。いずれの方法でも構いません。中国語訳は原文に忠実であるうえ、分かりやすい言葉が使われています。現代小説のように複雑な世情や時代背景はなく、内容も理解しやすいはずです。ピンインがあるので、辞書を使う時も単語を簡単に探せます。

参考までに、この絵本に出てくる例文を幾つか紹介します。中国語訳にチャレンジしてみてください。

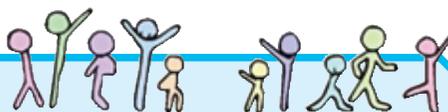
1) 原文 p.11「ようちえんの子ぐらいにしにかみえません。」⇒中国語訳文 p.1「看上去只有幼儿园的孩子们一般大。」

2) 原文 p.11「わたし、がっかりししちゃった。二年生になると、せがたかくなるとおもったのに、すこしもたかくなならないもん。」⇒中国語訳文 p.2「我好失望呀。以为到了二年级, 个子就会长高了, 可是, 一点儿都没长高。」

3) 原文 p.12「あきよは、まり子には話そうとおもったことを、やめにしました。」⇒中国語訳文 p.2「秋代把想对真理子说的话憋了回去。」
できましたか？ みなさん、この絵本を参考に中国語の腕前をさらに磨いてくださいね！

中国の絵本事情

いったいどんな絵本が読まれているのか



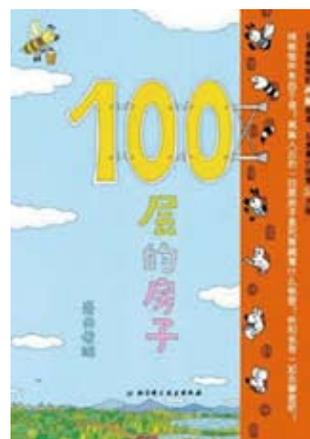
国際コミュニケーション学部 塩山 正純

二年前のことですが、中国の国家図書館が、読書キャンペーン「全国少年儿童絵本閲読年」の一環で絵本100選を決めました。この100選には、中国を代表する絵本作家の13作品をはじめ世界中から「こころ、友情、知識、環境、人生、自然、民話」など様々なテーマで、「少年儿童に読ませるのに相応しい」作品が選ばれました。いかにも世の子どもたちが敬遠しそうなスタンスですが、選ばれた作品を眺めてみると意外な発見もあります。

堂々の第一位は『小马过河（子馬が河を渡る）』。これは中国の民話をもとにした物語で、中国人なら誰でも知っている有名なお話です。子馬が初めてのおつかいで、川を渡ろうとしたとき、近くにいた牛が「すぐく浅い」と言う。ところがネズミが出て来て「溺れるほど深い」と言う。子馬は頭がこんがらがりました。帰って母親にわけを話すと、母親は「お前はひと様（牛やネズミは人間ではないけれども）の言ったことを自分の頭で考えたかい。ひとの話だけを聞いて、自分の頭で考えず、試さないのはいけないよ。さあ、自分で試してみなさい」とやさしく諭します。子馬はもう一度挑戦してミッション成功。自分の頭で考えることの大切さを説いた、いかにも「教育的にアリ」な作品です。小学校低学年の教材にも頻出する有名作品で、いろんなバージョンをインターネットでも気軽に読み比べることができます。

全100作品がどんなラインナップなのか気になりますが、“絵本100”や“2014全国少年儿童絵本閲読年指導书目”で検索するとすぐにヒットしますし、カラー刷りの小冊子までダウンロードできてしまいます。冒頭で「中国を代表

する絵本作家の13作品をはじめ」と言いましたが、さて残りの87作品はどこから選ばれたのでしょうか。アメリカの36作品、イギリスの6作品、フランスの4作品をはじめ、ロシア、アイルランド、スイス、スウェーデン、オーストリア、ドイツ、ポーランド、カナダ、日本の作品に、中国人作家の文とブラジル人作家の絵がコラボした1作品を含めた全87作品は外国の作品なのです。なんと日本は23作品で、アメリカに次ぐ堂々の2位です。実際に小冊子の100作品を眺めてみると、いかに皆さんも馴染みのタイトルが並んでいることか。すぐに日本語タイトルを出しては面白くも何ともありませんから、中国語のタイトルで紹介してみましょう。中国語を履修しているなら勉強のつもりで、そうでないひとクイズのつもりであの有名絵本の日本語タイトルを当ててみて下さい。答えは最後のお楽しみです。まずは日本の作品から。いわいとしおの《100层的房子①》は、シリーズの《地下100层的房子②》や《海底100层的房子③》とともに日本と同様の人気を誇っています。



そして、つといよりこの《第一次上街买东西④》、そんなタイトルの人気テレビ番組もありましたね。さいとうりゅうすけの《魔奇魔奇树⑤》、五味太郎の《鳄鱼怕怕牙医怕怕⑥》、新美南吉の《小狐狸买手套⑦》と続き、なかがわりえこ・やまわきゆりこの二匹の野ねずみのおはなし《古利和古拉⑧》は1963年からのロングセラーです。さらに、いわむらかずおのねずみの大家族の暮らしを描いた《14只老鼠大搬家⑨》、そして最後が、輪廻転生を繰り返す一匹の猫のものがたり、佐野洋子の《活了100万次的猫⑩》です。



日本以外の作品はすべて欧米のものが選ばれていて、ロシアの《手套⑪》、アメリカの《小房子⑫》、フランスの《巴巴爸爸的诞生⑬》、イギリスの《比得兔的世界⑭》など有名どころが満載。アイルランドの心温まる名作《猜猜我有多爱你⑮》、そして子どもの絵本デビューの定番、アメリカの《好饿的毛毛虫⑯》は知らないひとのない超有名な作品ですね。

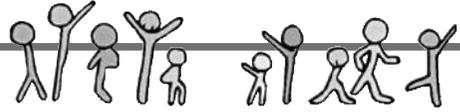
ざっと眺めてみた印象はどうでしたか。絵本100選というほんの小さな切り口ですが、世間的なイメージとはうらはらに、中国の「良いものは良い」と考える合理性、意外な柔軟性が見て取れたことと思います。じつはこの国が驚く

ほど柔軟に「そと」の文化を受容する懐の深さを持っているという一面にも気づかされます。わたしたちは何も知ろうとせずに、相手のことに無知でいると、マスコミが好んで垂れ流すようなイメージの延長線上でしかものごとを考えられなくなって、ついには哀しき思考停止に陥ります。思いがけない発見を期待して、ものごとをいろんな角度から見る習慣を心がけたいと思ったりする今日この頃です。

【絵本の日本語タイトル】

- ①100かいだてのいえ ②ちか100かいだてのいえ ③うみの100かいだてのいえ ④はじめてのおつかい ⑤モチモチの木 ⑥わにさんどきっ はいしゃさんどきっ ⑦てぶくろを買いに ⑧ぐりとぐら ⑨14匹の引っ越し ⑩100万回いきたねこ ⑪てぶくろ ⑫小さな家 ⑬バーバパパ ⑭ピーターラビット ⑮わたしがどれだけ君が好きかあててごらん ⑯はらぺこあおむし





子どもの本でタイ語を学ぼう！

国際コミュニケーション学部 加納 寛

幼いころに読んだり聞いたり見たりした絵本やお話は、私たちの言葉の基礎を作り豊かにするだけでなく、私たちの感性をも形作るものである。だからこそ、携帯電話のCMでモモちゃんやカグちゃんが出てくると、日本で育った人間は、別の携帯電話会社のCMに出てくる「言葉をしゃべるお父さんイヌ」以上に感情移入してしまうのである。

タイにも同様に、子どもたちが必ず読んだり聞いたり見たりする絵本やお話がある。それらに触れることは、タイ語を学ぶとともにタイの人々の心に触れることでもある。ここでは、そんな絵本やお話を高尚にご紹介申し上げようと思っていたのでございますが、限られた字数で昔話の筋を羅列的に紹介してもチットも面白くないことに、書きちまってから気づいた（お話自体はとても面白いものなのだから、それらを面白くない形で漠然と並べてお見せすることは罪だと思う）。そこで、昔話の紹介はいったん全て削除して別の機会に回し、今回は、日本人が活きたタイ語を学ぶことができ、またタイ人の心に近づけるような、そんな子どもの本を紹介していきたいと思う。

1. 昔話の絵本

タイにも多くの昔話がある。これらは絵本になっているものも多いので（しかもそれほど高くない：タイの本屋さんで買えば100円程度）、買って読んでみるとよい。ただし、内容は神様の世界や前近代の王室が舞台になっているものが多いし、わざわざ昔のタイ語表現になってい

たりするので、真っ先に紹介しておいてなんですが、純粋な現行「タイ語」のお勉強としては、あまり役に立たないかもしれない（外国人が「むかーし、むかしのことだがね、おじーさんとおばーさんがおったげな」と日本昔ばなしを読みながら現行日本語を勉強しようとするのは、無理がありそうなのと同じ）。一方、タイ人の多くが知っている常識的な知識を身につけるには適している。絵本を読む前に、日本語で富田竹二郎『タイ国古典文学名作選』（井村文化事業社、1981）を読んでおくといよい（愛大図書館にもあるですよ！）。芳醇なタイ古典文学のエッセンスを、楽しく手軽に味わえる。タイで壁画や古典舞踊などの芸術に触れる時にも、絶対に役に立つので、オススメ！



昔話の絵本（左）と学校の副読本（右）

2. 学校の副読本

品行方正でお勉強好きな私のような人にオススメなのが、これ。タイ全国にある教員協会の本屋さんなどで買うことができる（この店については、『Aichi University Lingua』第7号 pp.1-2を参照のこと。学校で使う用品は、骨格

模型から制服のボタンまで、なんでも揃う)。まあ、道徳的に正しいし、タイ語も正しい。会話文からは、とくにTPOに応じた活きたタイ語を学ぶことができる。学校や家庭が舞台になっていることが多いので、私たち外国人があまり深く立ち入ることができない部分の雰囲気もわかるかも。一方、タイ文部省お墨付きの本だったりするだけに、品行方正じゃない方は、読むのが辛いかも。

副読本ではないが、学校で用いる本としては、ドリルや子供用辞書などもオススメ！ タイ人が学校で使ってきたものなので、タイ人の感覚に近付くことができそう。

3. マンガ

日常的タイ語表現の「いま」を学ぼうと思ったら、これである。コンビニや駅の売店で、週刊マンガ誌（『マハーサヌック (มหาสนุก: 偉大なる楽しさ)』とか『カーイ・フワロ (ขายหัวเราะ: 笑いを売る)』など) が売られているので(約50円弱!)、簡単に入手できる。「子どもの本」についての原稿なのになんだが、内容は結構大人向けだったりもする。よくいえば、大人から子どもまでみんなで楽しめる? タイ人の「いま」の常識を学ぶにはもってこい。ちなみに2016年8月24日号の『マハーサヌック』は、「ポケモンGO」に関連したまんがが溢れていた。

4. 日本語をタイ語に翻訳した絵本やマンガ

親しみやすさからいえば、これである。日本で好きな絵本やマンガがある人は、タイの本屋さんで探してみるとよい。絵本も、日本の絵本がタイ語に訳されているものも多い。子どものころに好きだった『いやいやえん』が、タイ語で出ているのを見た時には涙が出た。日本語から翻訳されたマンガについては、一般の本屋さんではなくマンガ屋さんで探すのが手っ取り早

い。マンガ屋さんは、ショッピング・センターなどにも入っており、見渡す限り日本からの翻訳マンガが溢れている。マンガ好きにはたまらない環境である。オススメの活用法は、日本語の絵本やマンガを自分でタイ語に翻訳してみて、その後にタイ語版を見てみることである。日本語をタイ語に翻訳した人の苦労や工夫が、身に染みてよくわかる。

ちなみに、愛知大学のタイ語の授業の一部では、『クレヨンしんちゃん』のタイ語版を読み進めるコーナーを開いている。興味をお持ちの方は、タイ語の授業へGO!

そんなこんなで、子どもの本は、タイ語を学ぶだけでなく、タイの人々の心に触れることもできる夢の教材。是非、活用してみてくださいね!

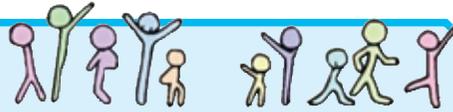


マンガ



日本語からの翻訳書

国境を越えたロシア民話



経済学部 清水 伸子

<日本に根付いたロシア民話>

さて、問題です。「うんとこしょ、どっこいしょ、まだまだ●●は抜けません」の●●は何でしょう？

あたり！そうです。「かぶ」です。

しかし、この大人から幼稚園児まで知っている「おおきなかぶ」のお話が、実はロシア民話であることは、あまり知られていないのではないのでしょうか？なぜ、これほどまでにロシア民話である「おおきなかぶ」は日本人の間で有名なのでしょうか？



「おおきなかぶ」
内田莉紗子再話 佐藤忠良画
(福音館書店、1962年初版)

<ロシア絵本の黄金期：1920-30年>

2004年に日本で「幻のロシア絵本展～1920-30年代～」が開催されました。これは、大正時代の日本の前衛画家やグラフィックアートの先駆者たちが所蔵していたロシア絵本コレクションを紹介するという形の展覧会でした。この展覧会に対して、ロシア美術史家が「1920

年-30年代のロシア絵本はロシア・アヴァンギャルドの最後のきらめきである」という文章を寄稿しています¹。

ロシア・アヴァンギャルドとは、20世紀初めのロシアを覆っていた芸術運動です。アヴァンギャルドという潮流の中で表現手法や技術の点で飛躍を遂げていた20世紀初めに、ロシアでは、1917年の革命によって帝政が終焉し、新政府が生まれました。当時のロシアの出版業界は、この大きな体制転換と社会変動から、さまざまな作用を受けました。

革命後のロシアは、物資の不足で質の高い印刷物を発行することが非常に困難でした。しかし、新政権である革命政府は、新しい国家の基盤作りの一環として、国の未来を担う子供たちのための本の発行を奨励し、その結果、多くの芸術家が児童書の作成に携わりました。つまり、このロシア・アヴァンギャルドの空気を吸っていた芸術家たちが児童書を作っていたのですから、この時代のロシア絵本が抜きん出ているのは当然のことです。

これらの絵本には、挿絵入りのお話や、写実的に描かれた動物植物の絵がふんだんに載った図鑑のようなもの、そして、解説通りに切り抜いて組み立てると出来上がるという、当時は斬新であったであろう（現在の子供用雑誌にはお決まりでしょうが）工作ものまでありました。それらの絵本には、限られた状況（悪い紙質、限られた配色）の下で、子供たちをいかに惹き付けるかという課題と芸術性の課題の両方を乗

り越えようとする当時の芸術家たちの意欲が感じられるのですⁱⁱ。

1920年から30年代にヨーロッパで開催された国際書籍見本市では、多くのロシアの絵本が出品され、注目を集めました。1931年のウィーンで開催されたロシア絵本展では、10万人もの人々が訪れるほどの人気を博したそうです。

＜優れた日本語翻訳テキストの誕生＞

大正期の日本でも、ロシア絵本に心を惹かれた芸術家たちが現れ、ロシア絵本が翻訳されたり、ロシア絵本の絵の構図を真似て絵本が作られます。その後、戦争による中断がありながらも、日本においてロシア絵本を高く評価するという人々の中から、ロシア民話である「おおきなかぶ」の翻訳が生まれました。

そして「おおきなかぶ」に関しては、お話の筋は単純であるにもかかわらず、何人かの翻訳者が新訳発表を試みるという事態が起こります。これはひとえに、翻訳者達が、読み聞かせにも耐えうるような、日本語としての表現の明快さと音読した際のリズム感を備えた翻訳を追求したからに他なりません。

こうして、冒頭で引用した、あの有名なフレーズ「うんとこしょ、どっこいしょ」が誕生するのです。実は、この部分に対応するロシア語の原文テキストは、「ねずみの後ろに猫、猫の後ろに犬、お婆さんの後ろにおじいさん、引っ張って、引っ張って・・・」という全く違う表現です。ロシア語としては、この部分のテキストは、音読するとてもリズムカルに響くフレーズなのですが、単語に忠実に日本語訳してしまうと説明調になってしまっただ面白みが出ません。「うんとこしょ、どっこいしょ」は、声に出して読んでいる人に、思わずかぶを引っ張る仕草までさせてしまうフレーズであるという

点で、まさに名訳なのです。

そして日本語版「おおきなかぶ」は、この身体表現をも引き出す優れたテキストであるがゆえに、幼稚園や保育園の日々の読み聞かせや発表会の定番の民話となっているのです。

＜優れたものは、人々に支持される！＞

しかし、「おおきなかぶ」は、1980年に自民党サイドから小学校の教科書から削除すべきであると名差して批判されました。その理由は全くナンセンスなものであり、もちろん全国で一斉に反対の声が上がりましたⁱⁱⁱ。

「おおきなかぶ」は、日本では、1955年の小学校の教科書に、ねじり鉢巻き、はっぴ姿のおじいさんに着物姿のおばあさん以下がカブをびっばるイラスト付きで登場しています^{iv}。そして2016年現在でも「おおきなかぶ」を載せている小学校1年生の国語の教科書もあります。もう60年近くも日本の小学校の教科書に載っているお話なのです。ですから、「●●に入る言葉は？」という冒頭の質問に、誰もが難なく答えられるぐらい、日本人には親しみのあるお話となっているのです。

優れたものは、権力者がつける難癖にも負けないのです！！（完）

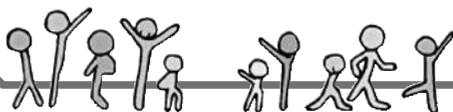
i 図録『幻のロシア絵本 1920 - 30年代』。

ii ロシアでは、芸術界に対する国家の統制や弾圧が強められていき、1930年にロシア・アヴァンギャルド最高の芸術家の一人であるマヤコフスキーが自殺し（1930年）、1932年にソ連共産党の中央委員会で「文学・芸術団体の改組についての決議」が採択され、ロシア芸術界は委縮していきます。

iii 『国語教科書攻撃と児童文学』、青木書店。

iv 『「おおきなかぶ」のお話』、東洋出版。

アンパンマンを卒業し、アンパンマンに戻る



経済学部 清水 伸子

＜アンパンマンの法則：「幼児は必ずアンパンマンにはまる」＞

男の子も女の子も、必ずアンパンマンにはまる時期がある。これは乳幼児にとっての「法則」みたいなものだ。

この法則に当てはまるのは3～4歳まで。5歳ぐらいからアンパンマンを卒業する子が現れる。それまで喜んで着ていたアンパンマンのTシャツを「キモい」呼ばわりするようになる。私の子供が通った保育園にも、アンパンマンの飾りつけがあり、アンパンマンの絵本はすぐボロボロになっていた。

そんな「あんぱんまん」も、世に出た最初のころは、不評の中での門出であったそうだ。

絵本の出版が決まった時、作者であるやなせたかしさんは、出版社から「こんな本はこれで最後にしてください」と言われたそうだし、1988年にテレビアニメ「それいけアンパンマン」が始まった時、テレビ局からも「1クールで終わりですからね」と言われていたそうである。

ところが、「アンパンマン」は、まず最初に、園児たちの間で爆発的に人気が出て、1989年以来、全国ネットの放送のアニメ番組となり、今では乳幼児にとって最強のヒーロー・コンテンツとなっている。

＜アンパンマンはスプラッター？＞

しかし、私が初めてアニメのアンパンマンを見たときの感想は、「なんて気持ちの悪い話だ！」であった。

何しろ、アンパンマンは、自分の顔をちぎって、ほかのひとたちに差し出すのだから。

アンパンマンの頭は【あんぱん】だから、ちぎったところから血しぶきが飛び散るわけではない。しかし、顔の欠けた部分からは中身のあんこが見えている。欠けた部分から頭の中身が見えるというのは、なかなかショッキングな絵ズラである。

これに加えて、「アンパンマン！新しい顔だよ！」と新しい顔が投げられ、古い顔が新しい顔に入れ替わる。つまり、顔（要するに、頭）が【すぐ変わる】のがお約束なのである！

ご存知のように、アンパンマンは、毎回、顔が濡れたり、カビ・ルンルンに襲われたり、顔がかけたままでいたりして、力が出なくなり、ジャムおじさんが焼いた新しい顔が届けられる。新しい顔になったアンパンマンは元気を取り戻し、お決まりの「ア～ンパンチ！」を繰り出し、バイキンマンは「バイバイキーン」と空の彼方へ飛ばされるのだが、どうしてもその時に頭に浮かんでしまうのだ。アンパンマンの古いほうの顔が、地面に落ちているのが……。これもやはり気持ちの悪い絵ズラだ¹。

こういう訳で、自分の子供やその友達たちが、嬉々としてアンパンマンのアニメを見たり、アンパンマンの絵を描くのが、私には長らく不可解であった。

そして、アンパンマンが最初のころに受けた不評も、この「【顔をちぎる】や【顔が入れ変わる】のは子供向けのお話としては残酷である」という考え方が根底にあったそうである。

＜アンパンマンの正義とは？＞

しかし、このアンパンマンが自分の顔を分け与える行為には、やなせたかしさん流の正義を

なす際のポリシーが込められている。

2013年10月にやなせたかしさんは鬼籍に入り、同年11月と12月にやなせさんの著作が出版され、《やなせたかしさん流の正義》が話題になった。

1919年(大正8年)に生まれ、第2次世界大戦を経験しているやなせさんは、「ほんとうの正義は、けっしてかっこうのいいものではない」、「正義をなすために、かならず自分も深く傷つくものであり、そういう捨身、献身の心なくしては正義は行えない」と述べている。

だからアンパンマンは、おなかがすいた人たちに、自分の顔をちぎって分け与えるのだ。

やなせさんは、スーパーマンは「やたら派手派手しい服を着てニューヨークを飛び回っていて、まるで自分のことだけをアピールするコマーシャルみたい」とも述べている。だから、やなせさんのアンパンマンは、おなかがすいた人たちに他の人(=ジャムおじさん)が焼いたパンを届け、バイキンマンをアンパンチでやっつけるだけのヒーローではないのである。

ちかごろ世界で起こっている紛争も、《アンパンマン流の正義》がないと考えれば、一向に解決しそうにないことにも納得がいく。純真無垢な乳幼児だけが、そのアンパンマンの魅力をも本能的に察知できるのかもしれない。

<アンパンマンの魅力>

しかし、もちろん、アンパンマンの魅力は、その思想性にのみあるなどとは思わない。

アンパンマンは、大変作り込まれた作品である。

バイキンマンの台詞は、「カキクケコー」やら「ナニヌネノー」など全部試した上で「ハヒフヘホー」に決められたのだそうだし、登場人物の中でジャムおじさんとバタコさんのみが「人」で、村の子供たちがちびゾウくんをはじめとして動物キャラなのも、アンパンマンの世界観として計算されたものである。そして、多くの魅力的なキャラクターが登場するのも愉快

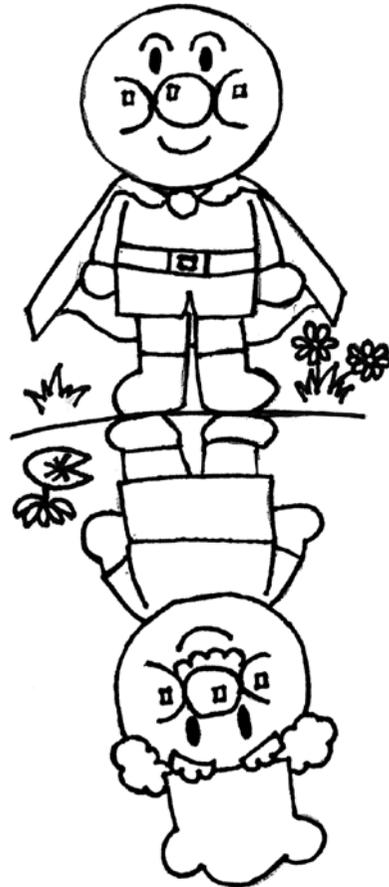
である。

また、やなせさんの原画は、色も構図も大胆で美しく、超一流のアートである。是非、高知県の香美市立やなせたかし記念館で見てほしいⁱⁱ。

子供たちは、アンパンマンを卒業して、スーパーマンや仮面もの、アイカツなどの【悪をやっつける正義】に心惹かれるようになる。しかし、アンパンマンは、大人になった私たちをも惹きつける魅力を持っているのだ。(完)

i やなせさん曰く、古い頭は新しいのと変わった途端に消えるとのこと。

ii やなせたかしさんは高知県香美市生まれ。
参考図書：やなせたかし著「アンパンマン VS アンパンマン」、「私が正義について語るなら」、「アンパンマンの遺言」など。



エロール・ル・カインの魅力 ～大人も惹きこむ不思議な世界～

国際コミュニケーション学部 4年 金井 夏美

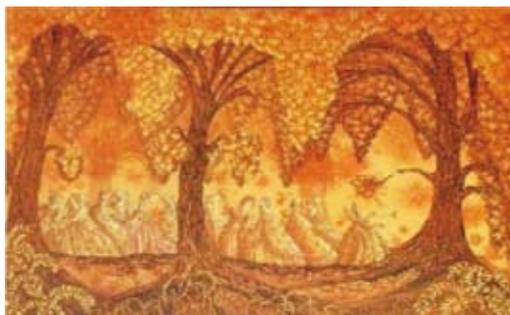
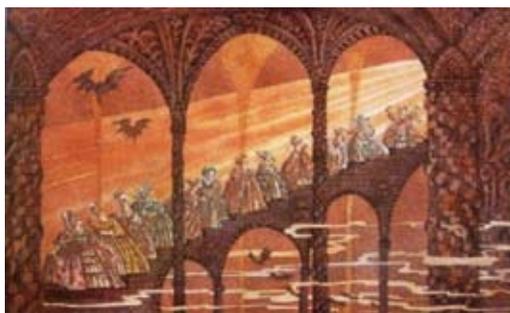
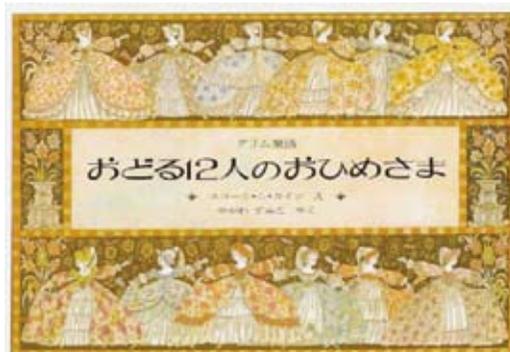
私がエロール・ル・カインという絵本作家にいつ頃出会ったかは定かではありませんが、彼の本を開いたときの衝撃は今でも昨日のこのように覚えています。もともと母が絵本好きという事もあり、家には何百冊といった絵本が揃ってました。そんな中、本棚に眠っていた『おどる12人のお姫様』を手にとった瞬間「あ、これは今まで読んだ絵本とは何か違うぞ」という直感を感じ、ワクワクしながらページを開きました。

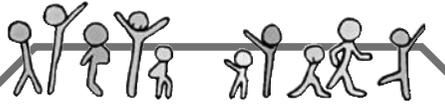
この本の物語は、夜眠りについてはいるはずの12人のお姫様たちの靴が、翌朝になるとなぜかボロボロになっているという謎を解いていくお話です。ある日一人の貧しい兵士が森で出会った魔女から透明になるマントを手に入れ、お姫様たちの後をつけていきます。すると、金の森や銀の森といった不思議な世界へと導かれていくといった具合です。

私は一瞬で彼の絵に釘付けになり、その世界へと吸い込まれていきました。彼の絵は針のように細い線で描かれており、多彩な色を使っても決して主張しすぎない繊細さが人を惹きつけます。私の好きなシーンは、お姫様たちが不思議な世界から帰る描写の隅にハシゴに乗って月の明かりを消している人影がある場面です。よく目を凝らさなければ読み飛ばしてしまうような小ささですが、物語の細部に渡り遊び心を散らばせている部分も彼の魅力だと思います。

私は彼の絵を見た後、これまで抱いていた絵本=子供の読みモノだという概念が一気に崩れ

去りました。どうしても絵本というと子供を対象としたものばかりだと思っていたので、この『おどる12人のおひめさま』のように物語も絵柄も大人がみて楽しめるものはないと思い込んでいたからです。もし、かつての私のように絵本に対して固定概念を抱いている人がいましたら、ぜひ一度彼の本を手にとってみてください。きっと想像を超えた世界へ連れて行ってくれることでしょう。





絵本から英語の感覚を探る

法学部 北尾 泰幸

「絵本は子どものもの」というと、もちろん「そんなことはない」という反論が出るでしょう。大人向けの絵本もありますし、もともと子ども向けに書かれた絵本であっても、大人が読んでも感動するものもあります。また大人が読んだ場合に、子どもとは違った点で心打たれたり、あるいは人生の道しるべになったりすることがあります。

とはいえ、絵本は子どもでも分かるように易しい言葉で書かれているという点が、ふつうの小説とは違う感動を読者に与えていることは間違いありません。そこで今回は、この「分かりやすい言葉で書かれている」という点に着目し、外国語で書かれた絵本を読むと、分かりやすい語だからこそ、却って、似通った語のニュアンスの差がよく分かることを、英語の絵本を例にして紹介したいと思います。

取り上げる題材は、アメリカ・ニューヨークの Hyperion Books for Children 社から出ている モー・ウィレムズ (Mo Willems) 氏による An Elephant & Piggie Book シリーズです。この An Elephant & Piggie Book シリーズは、残念ながら今年出された 26 作目が最後の巻となってしまったのですが、真面目で少々神経質な象のジェラルド (Gerald) と天真爛漫な豚のピギー (Piggie) が繰り広げるかわいらしい物語です。ジェラルドとピギーの会話がたくさん出てきます。著者のモー・ウィレムズ氏はもともとセサミ・ストリートでプロットを書いたりアニメ制作をしていた方で、子どもの興味を引くことに長けた人です。モー・ウィレムズ氏はこの An Elephant & Piggie Book シリーズでは、子どもが辞書を引かなくても読むことができるよう、とにかく簡単な言葉を用いることを心掛けているそうです。

このシリーズから、22 作目の *Waiting Is Not Easy!* を取り上げます。本にある文すべてを書き記したいところですが、紙幅の都合により、該当部分のみ抽出して説明します。ピギー

がジェラルドに “I have a surprise for you.” と言い、ちょっとしたプレゼントがあることを伝えます。ジェラルドはその surprise が何か知りたくて尋ねるのですが、ピギーは “The surprise is a surprise.” と言い、何か教えてくれません。そこでジェラルドは “Is it big?” “Is it pretty?” などいろいろと尋ねます。ジェラルドは質問を続けていくうちに “I CANNOT WAIT!” と言い出しますが、ピギーは、 “You will have to.” と答えます。ここで **must** ではなく **have to** が使われます。このあたりの会話で何度か **have to** が出てきますので、抜き出してみましょう。

(1) Gerald: I CANNOT WAIT!

Piggie: You will have to.

Gerald: Wait? What? Why?

Piggie: The surprise is not here yet.

Gerald: So I will have to wait for it?

Piggie: Yes.

Gerald: GROAN!

Gerald: Oh, well. If I have to wait, I will wait.



最後の部分で、ジェラルドは「待たなければならぬのなら、待つよ」と言っています。しかし、待てども待てども **surprise** はいつこうに現れる気配がありません。そこでジェラルドは「今すぐ **surprise** を見たい」とピギーに詰め寄りますが、それでもピギーは「待たなければならぬ」と答えます。ここでピギーは **have to** ではなく、**must** を用いて答えているのです。その部分を見てみましょう。

(2) Gerald: Waiting is not easy....

Gerald: Piggie! I want to see your surprise now!

Piggie: I am sorry Gerald. But we must wait.

Gerald: GROAN!

ピギーは (1) では “You will have to.” というように **have to** を使っています。しかし、何度

もジェラルドとやり取りをした後である(2)では、ピギーは“But we must wait.”と *must* を使って話しています。ここにまさしく *must* と *have to* の違いが表れているのです。

それでは、*must* と *have to* はどう違うのでしょうか。実は、以下のような違いがあります。

(3) *must*: 話者が自分の意志で「～しなければならない」と考えている。

have to: 客観的事実、あるいは外的要因により「～せざるを得ない」、あるいは「～する必要がある」。

文脈によっては両者の差は微妙で分かりにくいものもあるのですが、例えば次のような状況を考えてみましょう。友人の家のパーティーに誘われて、楽しい時間を過ごしている中、遠くから来ている自分は、他人とは違って最終電車の時間が早く、早めに帰らなければなりません。いよいよ帰る時間が迫ってきました。自分としてはもっとその場にいたいのに、最終電車という外的要因により、いわば仕方なくその場を去ることになります。このとき、パーティーの主催者に帰ることを伝えるときには *must* と *have to* のどちらを使うのがよいでしょうか。このときは *have to* を用いて、例えば(4)のように言うのがいいということになります。*must* を使って言うと、「自分も帰りたいと強く思っている」という意味合いが出てしまいます。

(4) I'm afraid I have to go now. My last train is leaving in 20 minutes....

さて、ピギーとジェラルドの会話に戻しましょう。(1)ではピギーは「*surprise* を得るためには待たなければならない」と客観的な立場から言っています。実はこの *surprise* は待たないと決して得ることができないものなのです。しかし(2)ではジェラルドは、はやる気持ちを抑えきれず、「待てない、待てない」と叫びます。そのジェラルドに対して、ピギーは“But we must wait.”と *must* を用いて言うのです。ここは(1)で *have to* を使っているからこそ、とても *must* が効いてくるのです。「自分も待ちたいと思っている、待つべきなんだ!」ということが強く表れた言い方になっています。

ちなみにこの *surprise* は何だったと思いますか。実は、夜にならないと見ることができない

「満天の星空」だったのです。よって、待つ必要があったというわけです。

この *must* と *have to* の違いは、英英辞典の語義からも探ることができます。例として、英語を外国語として学ぶ人向けの英英辞典である *Collins COBUILD Advanced Dictionary of English (Eighth Edition)* (HarperCollins, 2014年) を見ましょう。

(5) *must* [*COBUILD*⁸]

1. You use **must** to indicate that you think it is very important or necessary for something to happen. You use **must not** or **mustn't** to indicate that you think it is very important or necessary for something not to happen.
6. You use **must** to express your intention to do something.

(6) *have to* [*COBUILD*⁸]

1. You use **have to** when you are saying something is necessary or required, or must happen. If you do not **have to** do something, it is not necessary or required.

下線部で示した箇所から、*must* は「話者の意図」(your intention) が含まれること、また *have to* は「外的要因により必要であること」(something is necessary or required) が分かります。*must* と *have to* の違いは書きことばよりも話しことばによく表れると言えます。ちなみに *must* には「～に違いない」という意味がありますが、これも *must* の「話者の意図」から派生される意味です。また「～しなくてもいいよ」と相手に伝えるときに“You don't have to...”が用いられるのも、もう分かりますね。“You must not...”を使うと話者の意図が含まれますので、「～してはいけない」と、自分も強くそう思うという意味が出てしまいます。You don't have to...ですと、「(客観的に考えて)～しなくてもいいと思うよ」という意味合いを持つことになります。

さて、今回は平易な表現を用いて書かれている絵本だからこそ、却って英語のニュアンスの差が分かりやすいということを、絵本から例を示しながら紹介しました。実はこの他にも、もっともとお伝えしたい英語表現の違いがありますが、紙幅の都合上、またの機会にさせていただきます。



Romania is a country located in Southeastern-Central Europe with a population of 19.9 million citizens. Approximately forty-five percent of Romanians live in the rural areas. Therefore, thanks to the rural character of the Romanian communities, the country has had a long reputation for its creative tales and superstitions that are taken extremely seriously.

The supernatural plays an important role in Romanian culture and folklore. Each nation has its own traditions and beliefs and some of them might be quite irrational to the outside world; Romania is no exception to this either.

Ancient beliefs have been around for centuries and they have been transmitted from generation to generation. Many Romanians take these customs quite seriously and, thus, they are present even nowadays in everyday life.

I would like to talk about just a few unusual Romanian superstitions that reflect the way in which they influence the aspects of life.

1. *Sânzienele* (in English: Lady's Bedstraw flowers; *Sânziană* is the Romanian name for this flower and also it designates a type of a magical fairy).

Sânzienele are unreal and fantastic creatures that are made out of air. They are dressed in white and are said to be highly beautiful and to bring good luck. During the day they are like a pale wind and when night comes they transform into fairies with golden hair wearing white haze dresses and stunningly round-dancing in the woods and gardens. Whilst dancing they move from one place to another and sing with incredibly harmonious voices. They are transparent, pure and noble beings, very hard to be perceived because of their instable, fluid nature. They belong to the sky and are known to have very quick movements.

Romanian people celebrate the *Sânziene Eve Night* annually which marks the summer solstice (23rd to 24th of June); the days are getting longer. It is said that this night is magical and brings balance and tranquility. Also, "heaven's doors" open and spirits from the other world come to Earth and wander around. It is a prolific night for magic spells, especially for loved ones. According to popular beliefs, both beneficial and unlucky paranormal events happen. On the one hand, *Sânzienele* bring good crops, and fertility to married women, while they heal and comfort people's illness and sorrows. On the other hand, it is bad for a male to walk at night during *Sânziene Eve Night*, since they do not like to be seen by men. Therefore, the fairies will take their hearing/speech or drive them mad.



2. 7 years of bad luck will follow the one who breaks a mirror

A long while ago people understood that mirrors do much more than just reflecting one's image. Mirrors are thought of as being a portal to the other world and to help foretelling the future. Due to this belief, it is considered that by breaking a mirror your life course will be affected and hence the 7 years of misfortune. However, there is a method of "repairing" this mistake, which is to bury the mirror pieces in the ground.

Another old belief is that mirrors keep fragments of the soul of the people who look into them. Consequently, there is a custom of covering the mirrors in a house when somebody dies to make sure that the dead person's soul doesn't get trapped in it.



3. Numbers

Numbers have always represented an influential role around the world. In Romania the number 7 is thought to bring good luck. If someone's name contains seven letters then that person will be blessed, or if someone is the seventh child born into a family.

When you offer a bouquet you should always have an odd number of flowers in it. Traditionally bouquets of an even number of flowers are used when someone dies and at funerals.

Another odd Romanian belief concerns a whole day of the week: Tuesdays. Each Tuesday is thought to contain three hours of bad luck and usually if something bad happens during this day, Romanians tend to "blame" it on the day as the superstition says.

These are just a few superstitions that belong to Romanian folklore. There are, of course, the classical black cats or unlucky number 13 superstitions like in many other cultures. Nowadays, young Romanians or people living in the cities tend not to believe so much in them. I personally find them quite fascinating as they might give us the opportunity to find out more about ourselves or the unseen worlds, and spirits that are out there or more exactly around us.





今年の夏休み（8月15日から26日までの2週間）、私はロンドンにある University College London (UCL) で毎年行われている Summer Course in English Phonetics に参加した。English Phonetics とは英語音声学という意味で、音は口のどこで調音されているのか、個々の音にはどのような特徴があるのか、などを研究する分野である。このコースは半世紀以上も続く伝統あるもので、世界中から音声学専攻の学生、英語好きの学生、大学教員が集まってくる。スケジュールは月曜から金曜の朝9時から夕方4時までみっちり英語音声学を勉強する。しかし日本の大学と違って学生が授業に飽きないように工夫されているところがある。

例えば、1つの授業を50分の単位にし、50分ごとに「講義→個別指導→講義→個別指導」の順で構成されており、講義で扱った内容を個別指導クラスで実践してみるというものであった。残念ながら講義は日本人のために先生がゆっくりわかりやすく話してくれることはない。しかし私は東京の学生グループと一緒に行動しており、引率の先生が寮で毎晩その日の授業内容の復習と次の日の授業内容の予習をしてくださったおかげで、講義者の話すスピードが速すぎても前日にだいたい内容は聞いているのでリラックスして楽しく講義に出席することができた。個別指導は発音を扱うもの、イントネーションを扱うものの2クラスが1日にあるが、/r/ を発音すると舌を巻かないように即矯正される。他にイントネーションの指導に力が入られており、例えば Thank you. の語末を上げるか下げるかによって意味の捉えられ方が違うので注意しなければいけない、などがあった。

今までアメリカ英語しか学ばなかった自分にはとても新鮮で有意義な時間であった。もしイギリス英語に興味があれば是非参加していただきたい。来年は8月14日～25日に開催され、費用はEFL Strandで£695（約10万円）である（今年はポンド安だったので超ラッキー）。

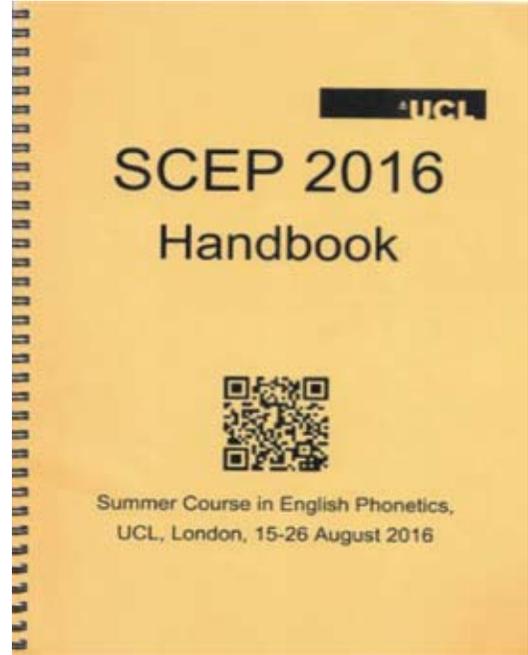


図1：講義で使ったハンドブック



図2：最終日にもらえる修了書

ホームページには〇〇がいっぱい！

みなさんは、語学教育研究室に公式ホームページがあることを知っていますか？カラーでお見せできないのが残念だけど、こんな感じのふんわりとした雰囲気です。



けれど、内容は充実していますよ。まさにこの瞬間読んでいる、この『Lingua』。専用ページでバックナンバーを読めるほか、Linguaの前身である『Goken ニュース（名古屋語学教育研究室発行）』と『LL ニュース（豊橋語学教育研究室発行）』も読むことができます。

また、入学後に合格した外国語検定試験で当研究室の基準を満たしていれば奨励金が受け取れる「外国語検定試験奨励金制度」（裏表紙参照）、名古屋校舎の伝統行事「外国語コンテスト」、豊橋校舎独自開催の「Language Café」（31 ページ参照）など、知って損はない情報を得ることができます。

特に 30 ページで紹介している「英語・中国語 e ラーニング」は、非常に役立つ Web 学習教材です。まだ試したことのない人は、ぜひ 1 度ログインしてみてください。

ホームページの詳細は、下記 URL もしくは、検索サイトで **愛大 語研** とググってみてください。
語学教育研究室公式ホームページ <http://taweb.aichi-u.ac.jp/tgoken/index.html>



今号のeラーニング【TOEICテスト演習2000コース】

～ TOEIC 本試験だけではなく、TOEIC IP 試験対策にも有効な学習コース～

特 徴

1. TOEIC 本試験と同形式の問題を各 2000 問収録。

2. 学習時間と目標に合わせてテスト選択が可能。

テスト 200…2 時間／テスト 100…1 時間／
テスト 50…30 分

※本試験の直前には「テスト 200」学習を推奨

3. リスニングとリーディングには制限時間が設定され時間内に解ききる術を養成。

4. 丁寧な解説機能により、間違えた箇所を徹底分析。

同じ間違えを繰り返させない。



【①リスニング】

1 問あたりの回答時間は 5 秒。
素早い聴解力と推測力を鍛える。

【②リーディング】

回答時間はセクション全体で 19 分。
※テスト 50 の場合
最後まで解ききる術を修得する。

【解答結果】

解説には、今後同じミスをせず、正解へと導くためのポイントが満載。
本試験での目安スコア換算機能つき。

50問中 19問正解
目安点 380点



こんな方におススメ



- TOEIC を初めて受ける方で、どのような勉強を行えばいいのかわかりたい。
- 模擬試験を数多くこなし、実力をつけたい。
- 出題傾向の把握と上手な時間配分を組み立てたい。

学習内容

- ① テスト 200……………10 ユニット
- ② テスト 100……………20 ユニット
- ③ テスト 50……………40 ユニット

eラーニング（英語・中国語 eラーニング）は、今号で紹介している「TOEIC テスト演習 2000 コース」以外にも下記の 5 コースがあり、学習者個人のレベルや目標などに合わせて自由に学習することが可能です。ぜひ授業の補助教材や英語力、中国語力向上に取り入れてください。

- スーパースタンダードコース ○ スタンダードコース ○ 初中級コース プラス
- PowerWords コース プラス ○ 中国語コース

アクセスも簡単で、Web 環境が整った場所およびパソコンから 24 時間好きな時にログインができるので、隙間時間を有効活用できます。

アクセス方法についての詳細は、次ページでも紹介している当研究室公式ホームページをご覧ください。（URL：http://taweb.aichi-u.ac.jp/tgoken/）

豊橋校舎の魅力～ Language Café ～

豊橋校舎では、ネイティブスピーカーの教員と授業枠を超えた自由な空間で、内容にこだわらない自由な会話やゲーム、アクティビティを楽しみながら、外国語のコミュニケーション能力を自然に向上させる Café を開催しています。（開催日程および会場は下表参照）

各 café の教員からもメッセージが届いています。教員との交流以外にも学部学年を超えた交流の輪も広がっているこの Café へぜひ参加してください。



【English Café】

The Language Café is a great place to relax, meet your friends, eat lunch and communicate in English. You can chat with your teachers, or there are books and manga in English for you to read and games for you to play. Plus, of course, there are hot and cold drinks – for free! See you there!

【Café Français】

Le mardi soir et le vendredi à midi, venez participer au Café Français et parler français !

À très bientôt !!

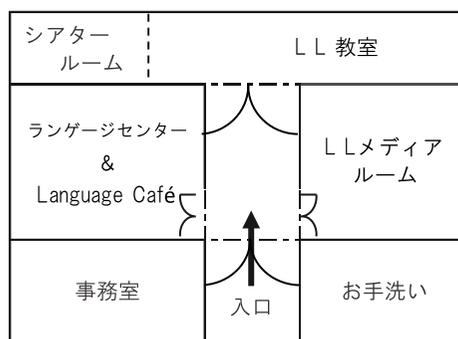
【中文茶座】

你喜欢学习汉语吗？你想提高自己的汉语会话能力吗？你想解决学习汉语中的难题吗？那么，请来参加每星期二中午的汉语茶座吧。从十二点半开始，五十分钟的时间，在汉语老师的指导下，大家一边吃饭喝茶，一边用汉语聊天，想说什么都可以，还可以请教老师各种问题。轻松愉快的氛围，相信你会喜欢，并从中受益。汉语茶座，欢迎你！

【開催日程】

	昼休み (12:40～13:15)	夕方 (16:40～)
English	月・火・水	月・水・金
中文	火	—
Français	金	火 (隔週金に CINÉ CAFÉ 開催)

【開催場所】



2016年度 外国語検定奨励金のご案内

言語	名古屋校舎		豊橋校舎	
	試験名称	基準	試験名称	基準
英語	実用英語技能検定（英検）	準1級以上	実用英語技能検定（英検）	2級以上
	TOEIC	650点以上	TOEIC	530点以上
	TOEIC S/W	130点以上	TOEIC IP	①750点以上 ②前年比100点以上
	TOEFL iBT	50点以上	TOEFL iBT	50点以上
	IELTS	4以上		
	国際連合公用語英語検定（国連英検）	B級以上		
	ビジネス通訳検定（TOBIS）	3級以上		
	日商ビジネス英語検定	3級以上		
	通訳案内士（通訳ガイド）	合格		
ドイツ語	ドイツ語技能検定（独検）	4級以上	ドイツ語技能検定（独検）	4級以上
フランス語	実用フランス語技能検定（仏検）	4級以上	実用フランス語技能検定（仏検）	4級以上
	DELFS・DALF	A1以上	DELFS・DALF	A1以上
	TCF	100点以上	TCF	100点以上
中国語	中国語検定	4級以上	中国語検定	4級以上
	新HSK	3級以上	新HSK	3級以上
ロシア語	ロシア語能力検定	4級以上	ロシア語能力検定	4級以上
韓国・朝鮮語	ハングル能力検定	4級以上	ハングル能力検定	4級以上
	韓国語能力	2級以上	韓国語能力	2級以上
タイ語	実用タイ語検定	3級以上		
日本語	日本語能力（JLPT）	N1級	日本語能力（JLPT）	N1級
	BJT ビジネス日本語能力テスト	460点以上	BJT ビジネス日本語能力テスト	460点以上

☆中国語は現代中国学部を除きます

受付期間 名古屋校舎 2017年1月31日まで

豊橋校舎 2017年2月21日まで

詳細は所属校舎の語学教育研究室にて確認してください。

奨励対象者 学部学生・短大生（協定留学生・大学院生・オープンカレッジ生等は除きます）



〈編集後記〉

第9号は従来になかった企画として「童話・メルヘン・絵本のお話」を取り上げました。この企画で今回数多く集まったのが絵本を扱った文章でした。絵本は子供たちだけの本ではなく、年齢制限なく読者を驚きの世界へ誘ってくれる本なのです。そうした絵本の世界への誘いを多くの先生方に書いていただきました。また、英語をはじめ原語による絵本や児童文学の読書についての案内もあります。Lingua が外国の言語や文化の楽しい学びに読者を導いてくれることを願います。

(H. S.)